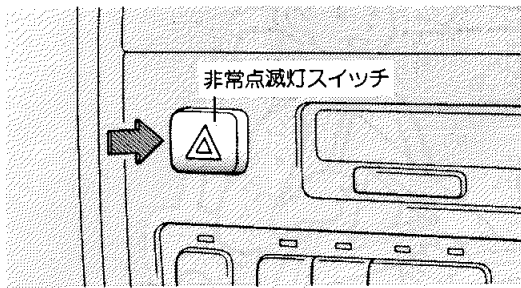


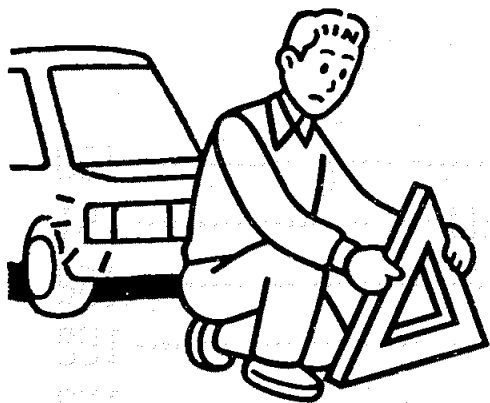
路上で故障したときは.....	150
エンストで始動できなくなったときは.....	151
走行中、警告灯が点灯したときは.....	152
工具・スペアタイヤ.....	153
パンクしたときは.....	158
オーバーヒートしたときは.....	162
バッテリーがあがったときは.....	164
けん引してもらうときは.....	166
キーを閉じ込んでしまったときは.....	167
事故がおきたときは.....	167

路上で故障したときは

- 車を路肩に寄せ、非常点滅灯を点滅させます。

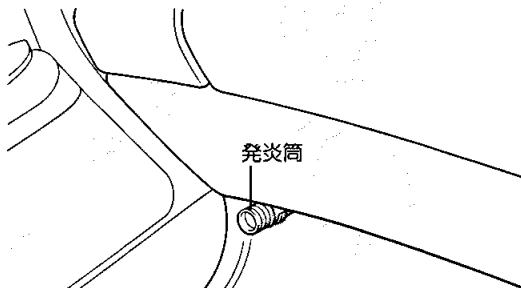


高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。



- 緊急を要するときは発炎筒で合図します。

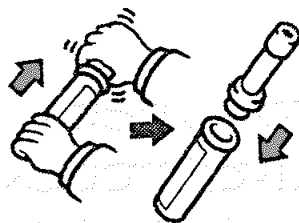
- 助手席足元に備えつけてあります。



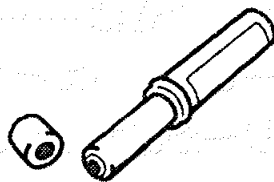
- 発炎時間は約5分間ですので非常点滅灯を併用してください。
- 発炎筒には有効期間があります。本体に表示してある有効期間のきれる前にトヨタ販売店でお求めください。

発炎筒の使い方

- ①本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。



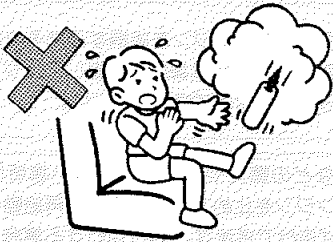
- ②キャップ頭部のすり薬でこすると着火します。





注意

●発炎筒をお子さまにはさわらせてないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故につながるおそれがあります。



- 発炎筒をガソリンなどの可燃物の近くで使用しないでください。引火するおそれがあり危険です。
- 発炎筒を使用中は顔や体に向けたり、近づけたりしないでください。
- 発炎筒をトンネル内などで使用しないでください。煙で視界を悪くするので危険です。トンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。

■困ったときはトヨタ販売店へご連絡ください。

「メンテナンスノート」巻末のトヨタサービス網をご覧ください。

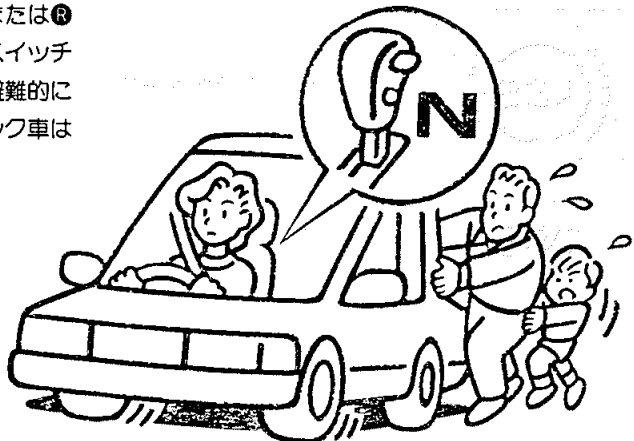
エンストで始動できなくなったときは

次の方法で安全な場所まで移動してください。

- 付近に人がいるときは押しもらう。(チェンジレバーは①で)
- マニュアル車はギヤを①(②でもよい)またはRにいて、クラッチを踏まずにエンジンスイッチをSTARTの位置で保持すれば、緊急避難的に車を動かすことができます。オートマチック車はできません。

△ 処置

踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。
緊急を要するときは発炎筒を使用してください。



走行中、警告灯が点灯したときは

	<p>充電警告灯</p>	<p>このまま走るとバッテリーあがりやオーバーヒートを招くため、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。</p>
	<p>油圧警告灯</p>	<p>このまま走るとエンジンを破損するおそれがあるため、ただちに安全な場所へ停車しエンジンを止め、トヨタ販売店へご連絡ください。</p>
	<p>排気温警告灯</p>	<p>枯れ草などの燃えやすいものがない場所に停車し、エンジンを止めて冷やします。再始動して消灯すれば走行できます。再び点灯する場合はそのまま使用せず、トヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>エンジン警告灯</p>	<p>エンジン電子制御システムに異常があるため、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>ブレーキ警告灯</p>	<p>このまま走るとブレーキが効かなくなるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。</p>
	<p>燃料・水分離器 水位警告灯</p>	<p>このまま走るとエンジンを破損するおそれがあるため、すみやかに排水してください。（排水方法は「警告灯」の項目を参照してください。）</p>
<p>T-BELT</p>	<p>タイミングベルト 交換警告灯</p>	<p>このまま走るとタイミングベルトが切れてエンジンを破損するおそれがあるため、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>ABS警告灯</p>	<p>システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
<p>4WD</p>	<p>4WD警告灯</p>	<p>システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

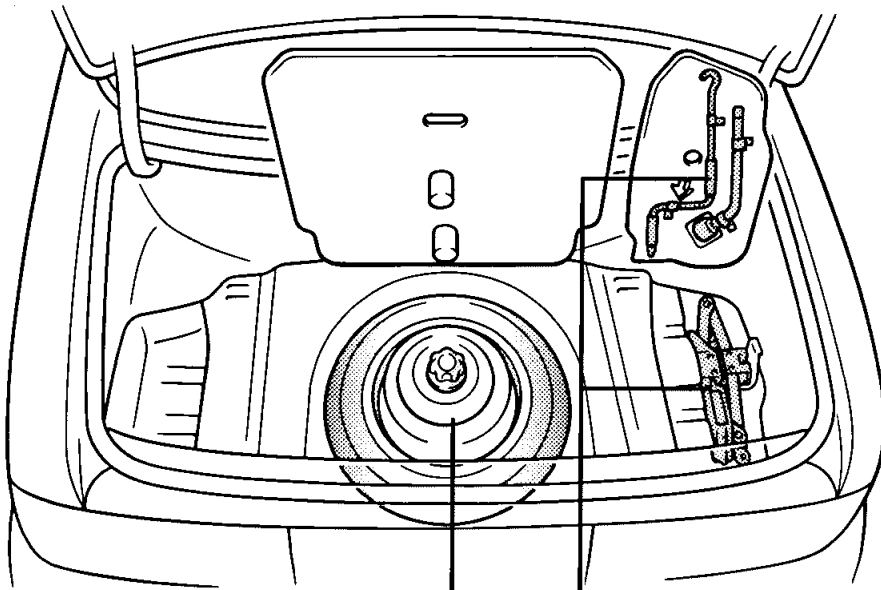
工具・スペアタイヤ

工具、ジャッキ、ジャッキハンドル、スペアタイヤは、トランクに格納されています。



注意

- 工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車に搭載されているジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外、使用しないでください。
- 車に搭載されているジャッキは、お客様のお車専用です。他の車に使用したり、他の車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

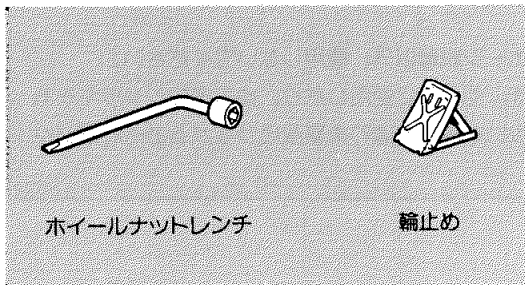


スペアタイヤ
(157 ページ参照)

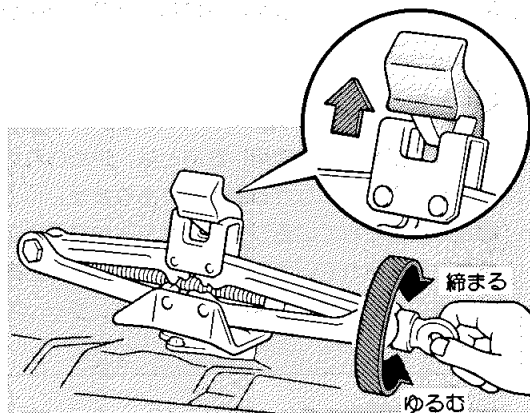
工具とジャッキ
(次ページ参照)

工具とジャッキ

- ホイールナットレンチ、ジャッキハンドルはフタの裏に取り付けられています。
- 輪止め袋の中には輪止めがはっています。



■ジャッキの取り出し方



- ジャッキをゆるめてははずします。
- 格納するときはジャッキが固定するようにかみあわせて締めます。

■ジャッキアップのしかた

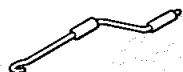
ジャッキアップをするまえに

①交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動します。

- パーキングブレーキをしっかりかけエンジンを止めます。
- チェンジレバーをマニュアル車は1速、オートマチック車はPの位置にします。
- 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

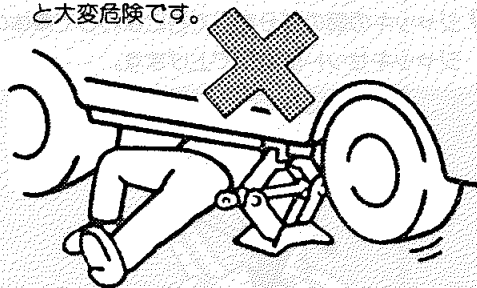
②ジャッキと以下の工具を取り出します。

- 輪止め
- ジャッキハンドル



注意

- ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。ジャッキセット位置以外にかかっていると、車体がへこんだり、ジャッキが倒れてケガをするおそれがあり危険です。
- ジャッキアップしたら車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキがはずれると大変危険です。

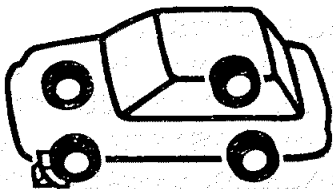


- 人を乗せたままジャッキアップしないでください。
- ジャッキアップするときはジャッキの上や下に物をはさまないでください。
- ジャッキアップしているときはエンジンをかけないでください。

■車体を持ち上げるときは

1 ジャッキアップする位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。

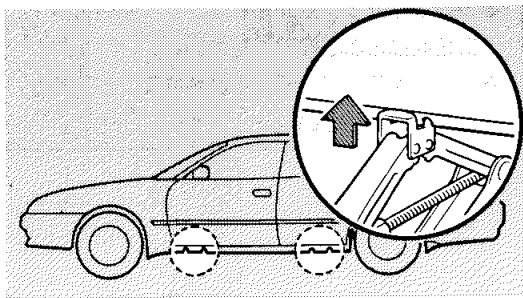
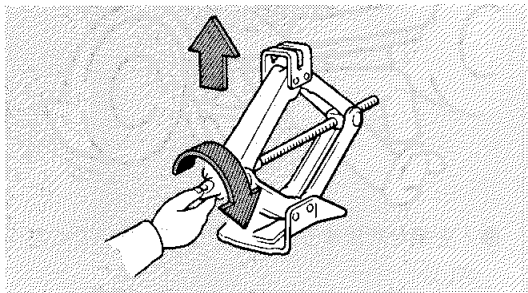
●前輪を持ち上げるときは後輪のうしろ側に、後輪を持ち上げるときは前輪の前側に輪止めをします。



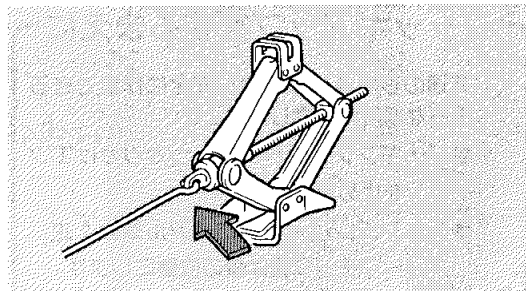
輪止め

2 地面の平らな固くて安定したところにジャッキをおきます。

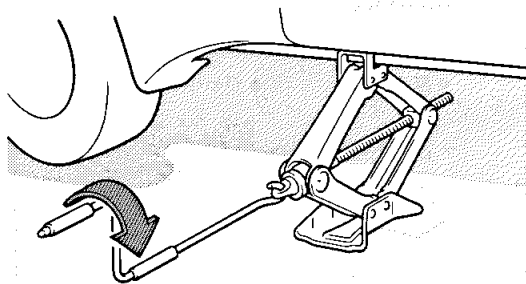
3 ジャッキの図の部分を手で右にまわして車体のジャッキセット位置まで上げます。



4 ジャッキハンドルをジャッキの穴部に確実に差し込みます。

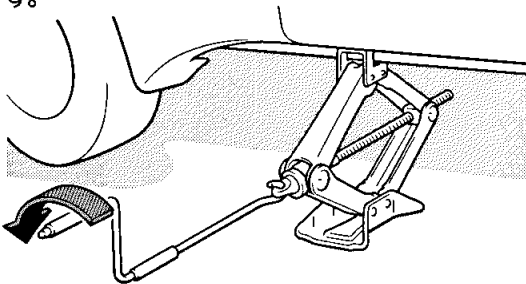


5 ジャッキハンドルを右にまわしてタイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。



■車体を下げるときは

ジャッキハンドルを左にまわして車体をおろします。



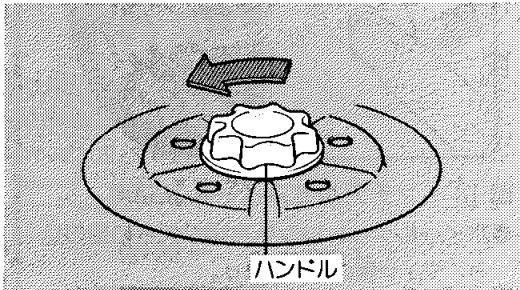
スペアタイヤ

↑ アドバイス

ツアラーVは前後輪でタイヤサイズが異なりますが、スペアタイヤには前輪と同じサイズのタイヤが搭載されています。
このスペアタイヤは、前後輪に使用できますがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。
パンクしたタイヤは、ただちに修理して、スペアタイヤとつけ替えてください。

■取り出し方

- 1 カバーを取ります。
- 2 ハンドルを左にまわしてタイヤを取り出します。



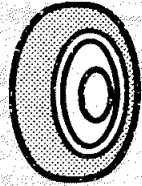
格納するときは逆の手順で取り付けます。
タイヤが確実に固定されていることを確認します。

■応急用タイヤについて★



注意

● 応急用タイヤを装着しているときは100 km/h以上で走行しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。応急用タイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。パンクしたタイヤはただちに修理して、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。



標準タイヤ

● 車に搭載されている応急用タイヤは、お客様のお車専用です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使用したり、他の車の応急用タイヤをお客様のお車に使用しないでください。走行に悪影響がでて思わぬ事故につながるおそれがあります。



応急用タイヤ

● 応急用タイヤを装着して突起物などを乗り越えるときは、標準タイヤを装着しているときと同じ感覚で運転しないでください。応急用タイヤ装着時は標準タイヤ装着時に対し車高が変化します。同じ感覚で運転すると車をぶつけるおそれがあります。

● 応急用タイヤにタイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体側に当たったり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。雪道、凍結路で後輪がパンクした場合は、応急用タイヤを後輪に使用せず、前輪に使用し、はずした前輪を後輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。

● LSD装着車は後輪に応急用タイヤを装着しないでください。後輪がパンクしたときは応急用タイヤを前輪に使用し、はずした前輪を後輪に装着してください。

● 応急用タイヤの空気圧はときどき点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
空気圧：4.2 kg/cm²（走行前のタイヤが冷えているとき）
空気圧が不足している場合や調整ができないときは、ひかえめな速度で走行してください。

パンクしたときは

スペアタイヤへの交換

— タイヤ交換をするまえに —

①交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動します。

●パーキングブレーキをしっかりかけエンジンを止めます。

●チェンジレバーをマニュアル車は1速、オートマチック車はPの位置にします。

●非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

②ジャッキ、スペアタイヤ、以下の工具を取り出します。

●輪止め

●ホイールナットレンチ



●ジャッキハンドル



③センターキャップ、フルキャップをはずします。

センターキャップの取りはずし方★



注意

直接手をかけて取らないでください。
また、取り扱いには十分注意してください。
ケガをするおそれがあり危険です。

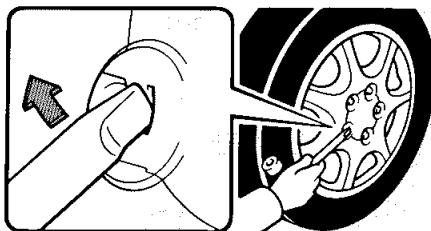


アドバイス

ホイールナットレンチ以外は使わないでください。

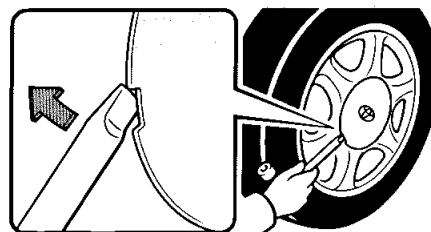
■ 15 インチアルミホイール装着車

ホイールナットレンチを切り欠きに差し込み、ホイールナットの頭部を支点にして、タイヤ側にこじります。

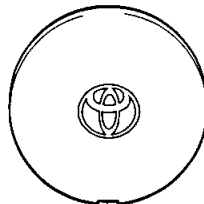


■ 16 インチアルミホイール装着車

●ホイールナットレンチを切り欠きに差し込み、タイヤ側にこじります。



●キャップを取りつけるときは、タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きの位置をあわせませす。



切り欠き

フルキャップの取りはずし方★



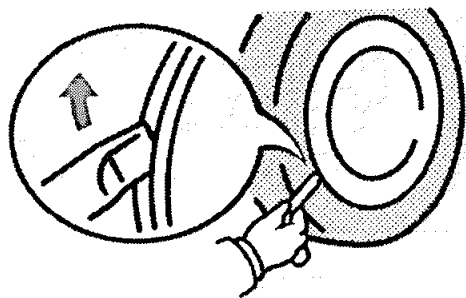
注意

直接手をかけて取らないでください。また、取り扱いには十分注意してください。ケガをするおそれがあり危険です。



アドバイス

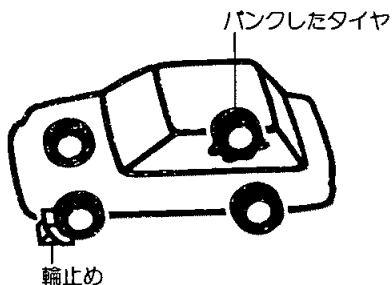
ホイールナットレンチ以外は使わないでください。



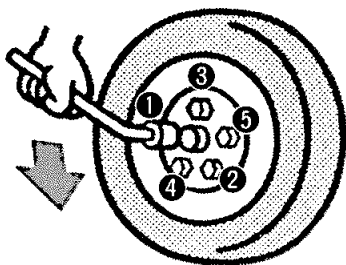
- ホイールナットレンチの先を差し込み、タイヤ側にこじるとはずれます。(2～3カ所、場所をかえて繰り返すと楽にはずせます。)
- ホイールキャップを取りつけるときは、タイヤのバルブ(空気口)に切り欠きをあわせてください。

1 バンクしたタイヤと対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。

- 前輪がバンクしたときは後輪のうしろ側に、後輪がバンクしたときは前輪の前側に輪止めをします。



2 ホイールナットレンチでナットを左にまわし、少しまわるくらいまでゆるめます。



3 取り替えるタイヤに近いジャッキセット位置にジャッキをセットし、タイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップし、ナットを取りはずします。

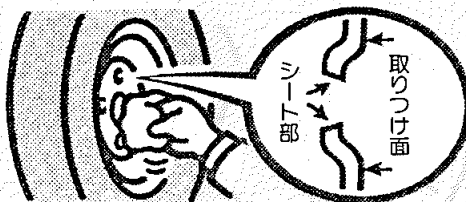
4 タイヤをスペアタイヤに取り替えます。



注意

タイヤを取りつけるときは、ホイールのシート部やホイールの裏側の取り付け面のよごれをふきとってから取りつけてください。

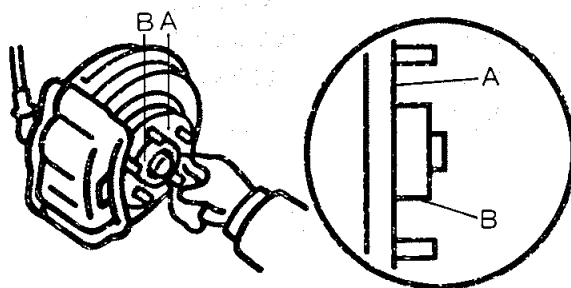
ホイールのシート部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどでよごれていると、走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあり危険です。



■アルミホイール装着車

- アルミホイールを取りつけるときは次の手順で行ってください。

①図のA、Bの面のよごれをふきとります。



②アルミホイールをBの部分に確実にめめます。

アルミホイールを直接地面に置くときは、傷がつかないように意匠面を上にして置いてください。

5 タイヤががたつかない程度まで、手でナットを右にまわして仮締めします。

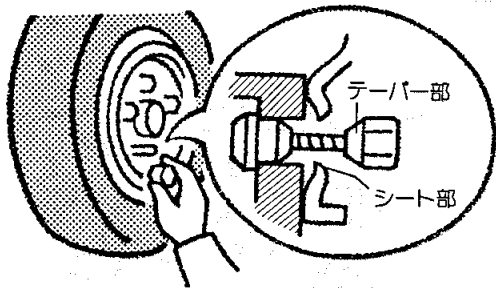


注意

タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。必要以上に締めつけられてボルトが破損するおそれがあります。

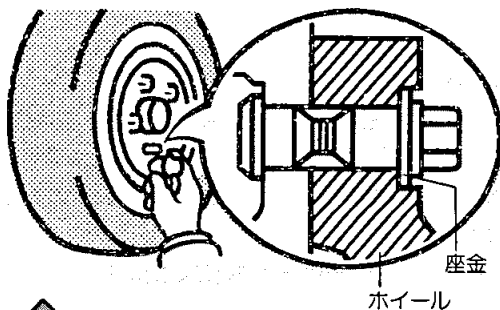
■ スチールホイール装着車

ナットのテーバー部がホイール穴のシート部に軽くあたるぐらいに仮締めします。



■ アルミホイール装着車

座金（ワッシャー）がホイールにあたるまでナットを右にまわして仮締めします。

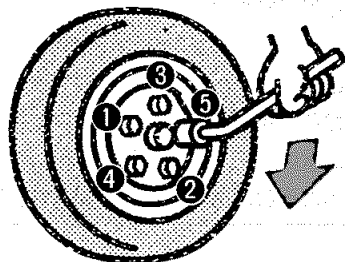


注意

ナットはトヨタ純正アルミホイール専用品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあり危険です。

6 ジャッキハンドルを左にまわし、車体をおろします。

7 ホイールナットレンチを使用して⑧の順序でナットを2～3度にわたり十分締めつけます。



注意

ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけしないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。

8 工具、ジャッキ、タイヤを片づけます。

アドバイス

- 傷、変形があるものは再使用しないでください。
- 1,000 km 走行したあとに再度ナットを締めつけ、ゆるみがないことを確認してください。
- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランスの点検をトヨタ販売店で受けてください。
- タイヤの空気圧を確認してください。運転席ドアを開けたボデー側に貼られている「タイヤ空気圧」の表を参照してください。
- タイヤを新品と交換するときは 133 ページを参照してください。

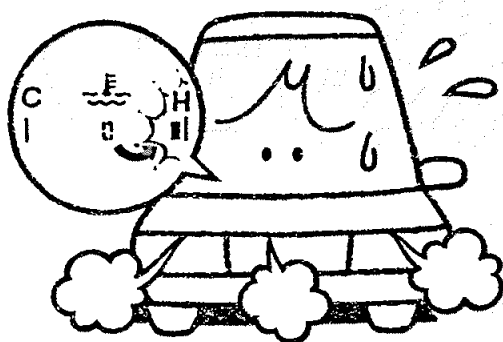
オーバーヒートしたときは

注意

- ボンネットから蒸気がでているときは、蒸気がでなくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどをしたり、思わぬケガをするおそれがあり危険です。また、蒸気がでていない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分注意してください。
- ラジエーターや補助タンクが熱いときはキャップをはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出してやけどをするおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆつくりと開けてください。
- 冷却水は、エンジンが熱いときにいれないでください。急に冷たい冷却水をいれると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆつくりといれてください。

処置

- 1 車を安全な場所に止めます。エアコンを使用しているときは、OFFにします。
- 2 ボンネットから蒸気がでていたらエンジンを止めます。蒸気がでていなければ、ボンネットを開けてそのままエンジンをかけておきます。
〈ボンネットから蒸気がでている場合のみ〉
蒸気がでなくなったら、風通しをよくするためにボンネットを開けエンジンをかけます。
- 3 ラジエーター冷却用のファン(3000車、2500車のみ)が作動していることやファンベルト切れの有無を確認してください。万一、ファンが作動していないときやファンベルトが切れているときはただちにエンジンを止めてトヨタ販売店に連絡してください。
- 4 エンジンが十分に冷えてから、冷却水の有無、ラジエーターのコア部(放熱部)の著しいよごれ、ごみの付着の有無、ファンベルトのゆるみなどを点検します。
- 5 冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。
- 6 早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。



こんな状態がオーバーヒートです。

- 水温計の一番右の部分が点滅したとき。(指針式メーターは針がレッドゾーンにはいったら赤信号)
- ボンネットから蒸気が立ちのぼりエンジンの出力が低下。

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量、地面に水漏れがないか日頃から点検を。
点検方法は「メンテナンスノート」をご覧ください。

MEMO

Lined writing area with horizontal lines.

バッテリーがあがったときは

こんな状態がバッテリー上がりです。

- スターターがまわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ヘッドランプがいつもより暗い。
- ホーンの音が小さい。または鳴らない。

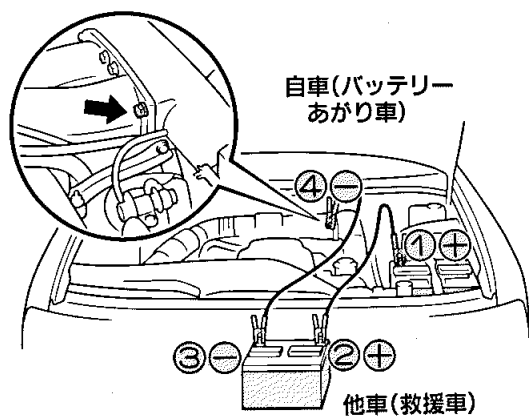
始動のしかた

押しがけによる始動はできません。

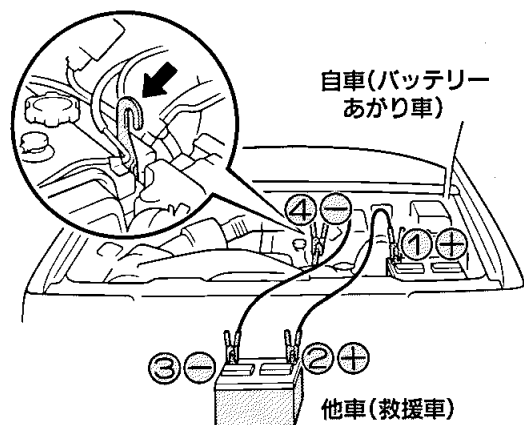
救援車を依頼しブースターケーブルでエンジンを始動しましょう。なお、救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

1 ブースターケーブルを図の番号の順につなぎます。

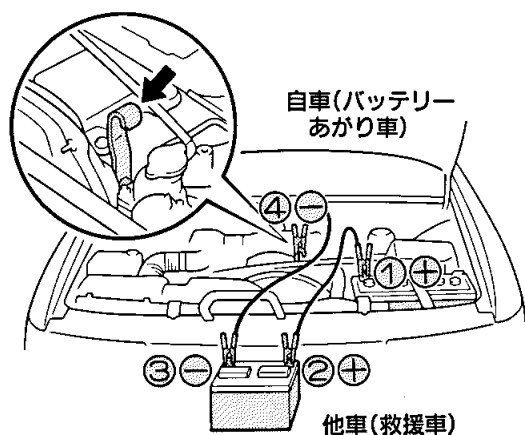
2 JZ-GE、1JZ-GE搭載車



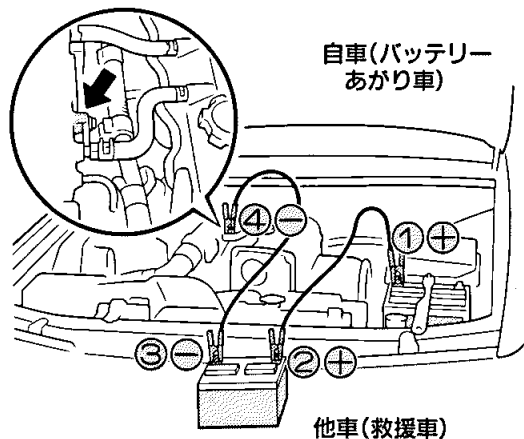
1 JZ-GTE搭載車



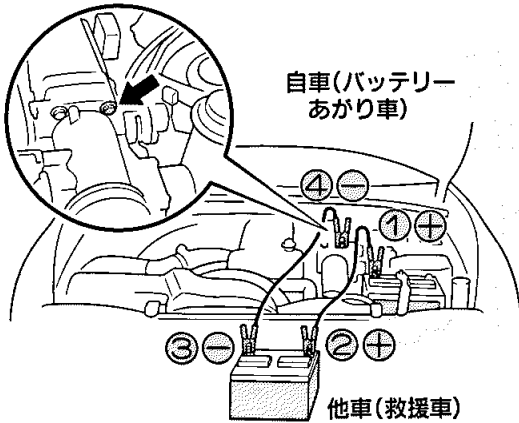
1G-FE搭載車



4S-FE搭載車



2 L-TE搭載車



4 ブースターケーブルをつないだときと逆の順にはずします。

注意

- ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。
- 火気をバッテリーに近づけないでください。爆発するおそれがあり危険です。
- 応急処置をしても始動しない場合やバッテリーがあがりやすい場合はトヨタ販売店へご連絡ください。

注意

④の接続は自車/バッテリーの⊖端子につながないでください。バッテリーに直接つなぐと、火花が発生しバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。

2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにし約5分間その回転を保持します。

アドバイス

救援車のバッテリーにより自車(バッテリーあがり車)のバッテリーが充電されます。

3 自車のエンジンをかけます。

注意

バッテリーに近づかないでください。バッテリー液が吹き出すおそれがあり危険です。

バッテリーあがりを防ぐために

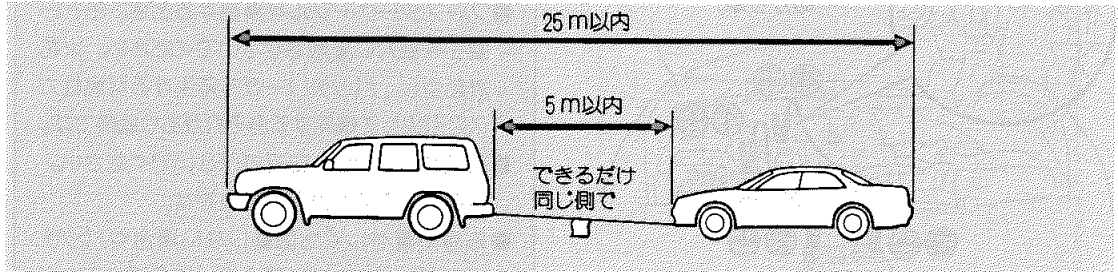
- エンジンを切ったままライトをつけたり、ラジオ、カセットを聞かない。
- エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、ときどきエンジンの回転を上げてやる。
- バッテリー液量が減っていると充電能力が低下して、寿命が短くなります。ときどき点検して液の補充を。点検方法は「メンテナンスノート」をご覧ください。

けん引してもらうときは

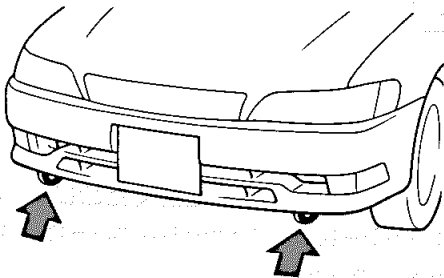
エンジンがまわっているのに車が動かなかったり、異常な音がする場合は、駆動系の故障が考えられますのでけん引する前にまずトヨタ販売店へご連絡ください。

ロープによるけん引

- ① ボデーに傷をつけないようにしてロープをフックにかけます。
けん引ロープには、0.3メートル平方（0.3m×0.3m）以上の白い布を必ずつけてください。



フックの位置

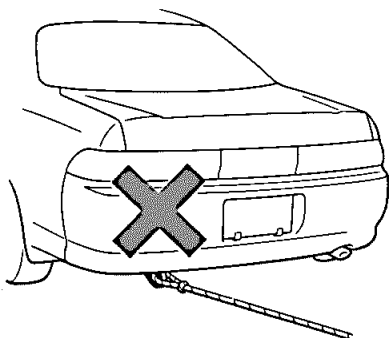


- ② チェンジレバーをNにします。
③ エンジンスイッチをACCまたはONにします。
④ けん引ロープをたるませないように前の車の制動灯に注意してください。

リヤ側フックについて

このフックは船舶固縛などで車両を輸送するときに固定するためのものです。けん引には絶対使用しないでください。

この車で他車をけん引することはできません。



注意

- エンジンキーを抜いたり、エンジンスイッチをLOCK位置にしないでください。キーが抜けているとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあります。また、エンジンスイッチがLOCK位置だとキーが抜けるおそれがあります。
- A/T車の場合、けん引速度は30 km/h以下、けん引距離は80 km以内にしてください。この速度、距離を超えるとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
- 長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。
- けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると事故につながるおそれがあります。

※ 4WD車にお乗りのかたは124ページもあわせてお読みください。

キーを閉じ込んでしまったときは

△ 処置

- JAFを呼ぶ。
- キーナンバーをトヨタ販売店に知らせキーを作る。

キーの閉じ込みで困らないために

- 日頃からキーを使ってロックする習慣をつける。
- バッグにスペアキーをいれておく。
- キーナンバーを控えておく。



事故がおきたときは

あわてずに次の処置をしましょう。

1

続発事故防止

2

負傷者の救護

3

警察への届け出

4

相手方の確認とメモ
(氏名・住所・電話番号)

5

ご購入された販売店と
保険会社への連絡